

中信

北アルプスのニホンジカ

生態系への影響に危機感

松本で対策考えるシンポ

国や県などで行った試験捕獲で、主に6月に行った試験捕獲で、捕獲はなかったが、ドローン調査ではシカを確認したと報告した。

信州大農学部(南箕輪村)の泉山茂之教授(動物生態学)は南アルプスで深刻化した食害に触れつつ、大田市郊外からコマクサが群生する蓮華岳(2799m)の山頂付近にもシカが登っている状況を紹介。この10年でシカの行動範囲が広がっていると説明した。

パネル討論もあり、県環境保全研究所(長野市)の尾関雅章主任研究員は、植物の多様性保護の観点から北ア白馬連峰が優先度が高いと訴えた。泉山教授は、美ヶ原など東山でシカの生息密度が高く、北アに入っている一と分析。「供給側なるべく低密度を維持する」必要性などを訴え、捕獲を続けていく大切さを強調した。



ニホンジカを巡る状況について報告があったシンポジウム

犯罪被害者等支援条例

安曇野市、年内に制定へ

安曇野市は31日、「市犯罪被害者等支援条例(仮称)」の制定に向け、検討を始める」と明らかにした。制定済みの、県や市町村の条例を参考に、

犯罪被害者や家族への支援金など具体的な内容を定める。12月議会定例会に条例案を提出し、年内の施行を目指す。太田寛市長が定例記者会見

安曇野の天蚕糸

学生が活用探る



学生に天蚕糸について説明する田口会長(右)

安曇野市内の商業、観光団体でつくる市海外プロモーション協議会は31日、市特産の「穂高天蚕糸」の魅力を国内外に発信しようと服飾を専攻する都内や大阪府の学生ら10人を招いた交流体験事業を4日間の日程で始めた。学生らは滞在中、天蚕糸について理解を深めて新商品や販売戦略を考える。

事業は従来の製品にとらわれないアイデアを学生から募り、天蚕糸活用拡大を目指して2021年に始まり、今年で3年目。

初日は、安曇野市天蚕センターで市天蚕振興会の田口忠志会長(76)から天蚕糸の歴史や生産工程を教わった。田口会長は、天蚕糸1kg当たりの価値は60万〜70万円相当として説明した。5月に中野市で起きた4人殺害事件などを踏まえ、「いつ誰かが犯罪被害者やその関係者になる恐れがある。(被害者が)平穏な生活を取り戻せるように社会全体で支援していくための条例の策定を目指す」と述べた。8月に条例の骨子案を示

へアカットに 中高生が挑戦

松本で体験学習会

県理容生活衛生同業組合(松本市)は31日、中高生向けの体験学習会を松本市中央1の県理容会館で開いた。中学生4人と高校生2人が参加し、マネキンを使ってカットに挑戦した。若者に理容業界への興味を

「繊維のダイヤモンドとも呼ばれる」などと説明した。学生らは滞在中、市内の飼育林で繭の収穫体験をしたり、市内の芸術家から話を聞いたりする。今後は月2回、オンラインでアイデアを考え、来年2月のコンテストで新商品などを発表する予定だ。参加した西田彩さん(31)は「京都市には天蚕糸の存在を知らない人にも良さが伝わるような商品を考えたい」と話していた。